

花咲翁伝承について

博士前期課程二年 古川のり子

日本各地の花咲翁伝承を整理すると、そのより古い姿において、ハイヌウエレ型と呼ばれる芋や果樹の起源神話と非常によく似ていることがわかる。ハイヌウエレ型神話は、熱帯地方で芋や果樹の原始的な焼畑農耕を営む古栽培民の文化を本来の基盤とするものであるという。花咲翁とインドネシア、セラム島の典型的なハイヌウエレ型神話との間には、次のような対応関係が認められる。

ハイヌウエレ

花咲翁

○池に飛び込んだ猪の死体にココ○木の根・果実・箱などが川を流ヤシの実がついてくる

れてくる。

○布に包んで戸棚にしまう

○戸棚・櫃などの中に入れておく

○ココヤシの花から少女が誕生

○木の根などから小犬が誕生

○異常な成長

○異常な成長

○少女は身体から富を排泄

○犬は身体から富を排泄

○少女の殺害

○犬の殺害

○少女の死体を切り刻んで埋める

○犬の死体を埋める

○死体から各種の芋が化生し、農

○死体から果樹が化生し、収穫を

耕の起源となる。

もたらす、その木を焼いた灰を畑

に撒いて収穫を得る

花咲翁伝承の原形は、ハイヌウエレ型の果樹起源神話であったのではないかと考えられる。

また焼畑雑穀栽培文化を特徴とする照葉樹林帯（アッサムからインドシナ北部、江南中国にかけて広がる）には、ハイヌウエレ型の雑穀類の起源神話が分布している。その同じ地域にまた花咲翁と非常によく似た「狗耕田」、「蛇むこ」、「ミカン姫」などの話が伝えられている。これらの話と花咲翁伝承とは、主人公の殺害、その死体及び灰による植物の化生・豊穡という点で一致し、主人公が次々と転生していくのに伴って善者に利益がもたらされ、悪者は破滅していくというその展開が酷似している。

そこで花咲翁伝承の話を、その文化的基盤によって二層に分けて表わしてみると次のようになる。

古栽培文化タイプ

焼畑雑穀栽培文化タイプ

○水界から木の根などが出現

○犬の殺害

○それを戸棚などに入れておく

○死体から植物が化生

○木の根などから小犬が誕生

○生えた木で臼をつくる

○異常な成長

○臼を焼く

○犬は身体から富を排泄

○灰を畑に撒いて収穫を得る

○犬の殺害

☆主人公の転生に伴い善者が利益

○死体から植物が化生（果樹）を得、悪者が破滅する展開

結論として花咲翁伝承は、その最も基本的な形において古栽培文化タイプにより近く、より新しい話形において焼畑雑穀栽培文化タイプにより近いという二重構造を持っており、このような二層の焼畑農耕文化が重なることによって成立したと考えられる。